

【外川神社】

横浜市史稿（昭和一〇年刊）より

外川神社は、保土ヶ谷区岩間町二、三四五番地に在る。境内は五二〇坪。古来、保土ヶ谷宿の内に羽州湯殿山の講中があつて、明治二年に、講中の先達の清宮興一なる者が、湯殿・月山・羽黒の三山の霊場を参拜の際に、羽黒山麓の外川仙人大権現の分霊を勧請して来て、自己の所有地内即ち今の處に奉祀し、外川仙人大権現と称したものである。その神験顯著で、殊に小児の蟲封じや航海の安全に利益があつたとして、遠近から参詣する者が夥しくなつたが、神仏分離令の発布されたときに、日本武尊を祭神と定めて、社名を外川神社と改称したのである。東海道の汽車敷設の際には、宿の内に在つた道祖神・稻荷社等を境内に奉遷して祭祀した。祭神 日本武尊で、月夜見命・大山祇命・稻倉魂命を配祀する。本殿（桁行九尺、梁間七尺五寸）は銅葺、流れ造。拝殿（桁行十五尺、梁間十二尺）は銅葺、入母屋造、唐様花頭窓を設けてある。境内神社に左の三社がある。

宇賀神社。祭神は宇賀御魂命。社殿（桁行六尺、梁間四尺）は亜鉛葺。由緒は不詳。

道祖神社。祭神は道臣命。社殿（桁行九尺、梁間九尺）は草葺。由緒は不詳。

稻荷社。社殿は（桁行三尺、梁間三尺）小祠。

附属建物には

木造神明形鳥居一基・水屋手水鉢一箇・石灯笼一對

神楽殿（桁行二間半、梁間二間半、亜鉛葺）一棟

社務所（桁行二間半、梁間三間半、亜鉛葺）一棟がある。

例祭は七月十七日。崇敬者は一万人。